



# 希望の花

鶴ヶ島市立西中学校  
学校便り No.7  
令和7年12月23日  
文責 校長・真武公司

今年の冬は乾燥した晴天が続き、気温もそろそろ寒いという、いつもながらの冬だなあと感じています。しかし、スキー場には雪が降らず、営業できずに死活問題だというニュースを見ました。11月に大雪があったというニュースを見ていたので、ちょっと驚きでした。

今年の漢字に「熊」が選ばれたように、人里に熊が現れる事態が多く発生しています。近隣の越生や毛呂山、飯能で「見かけたのは熊ではないか」という報告もありますし、東秩父ではイノシシの罠に熊が2頭かかっていたことがあったそうです。熊に襲われて亡くなった人も多くいらっしゃるの事実です。でも、熊の側からすると、熊も生きるのに必死なのだろうと思います。人間と野生生物がウィンウィンで共存できるすべはないのだろうかと思いますが、結論は難しいと思います。



昨日は冬至でした。季節を24に分けた「二十四節気（にじゅうしせき）」の1つで、昼間の時間が1年で一番短い日です。しかし、寒さはこれから本番で「小寒」「大寒」と続いていきます。生命の象徴である太陽の力が最も弱くなる日で、翌日から再び太陽の力が強まっていくので「太陽が生まれ変わる日」とも捉えられています。「一陽来復（いちようらいふく）」とって、冬至を境に運が向いてくる、つまり、みんなが上昇運に転じる日らしいです。特に今年は太陽の転換の時間が12月22日午前0時03分という、季節の変わり目と1日の変わり目が同時に揃う珍しい年です。「一陽来復」の力が最も強い日らしいです。



理科的な見方・考え方から冬至を語ると、南中高度が1年で一番低い日、南回帰線上の地点では太陽が真上を通る日、ということになります。家庭的な見方・考え方からは、昨日の給食は冬至メニューでしたが、どの食材が冬至に由来していたのでしょうか。数学的な見方・考え方だったり、美術的な見方・考え方で冬至を語るとどうなるのだろうと興味津々です。

冬至の話題1つでも、いろいろな角度から攻めていくと新たな発見があり、知識が再構築され、深まっていきます。義務教育で各教科をまんべんなく学ぶ意義って大きなことだといつも思います。

## ノーベル賞受賞者

2025年のノーベル賞は、生理学・医学賞に坂口志文さん、化学賞に北川進さんが受賞されました。これで30人の日本人がノーベル賞を受賞したのですが、朝日新聞の受賞者の学歴に関するコラムに目がとまりました。出身大学は30人全員国立大学。出身高校は28人が公立高校、その中でも都立高校が1人で、27人は地方の公立高校なのだそうです。埼玉では2015年に物理学賞を受賞した梶田隆章さんが、東松山市の出身、県立川越高校から埼玉大学に進学されています。

この件に関して、Xで「私立組→1から10にするのが得意、問題を解くのが得意 公立組→0から1を生み出す、未解決問題を解くのが得意」というイメージがあるとつづやきがあります。もちろん、受賞された方が高校や大学で学んだ時代は、公立・国立が優位の時代だったとは思いますが、しかし、それだけではない教育方針等にも差異があったのではないかとということに、九州の公立高校出身の私は、なんとなく共感を覚えます。私の母校は、大学に受かるための勉強ではなく、人としての資質・能力の向上を図ってくれたと

思っています。とにかく履修科目が多かった。社会は地理、日本史、世界史、倫理社会、政治経済の全部、理科も生物、地学、化学、物理の全部、数学は数学Ⅲの始めまで全員履修でした。幅広く学べたことが、今の生き方や考え方に活きていると実感しています。

また、今年の2人の受賞者が大切にしている言葉が「運鈍根」で共通しています。運鈍根とは、物事を成功させるのに必要なのは、「幸運」と「才気走らず粘り強いこと」と「根気」の3つだという意味です。つまり、粘り強く、あきらめず、コツコツとやって、そこに幸運が舞い込めばうまくいくということです。2人は研究成果が認められない苦難の時代が長くあったことを明かしています。それでも自分を信じてコツコツと研究を続け、花が開いたのです。研究で成果をあげるために必要なこととして、地道な努力を受賞者2人がともに挙げているということは、心を打ちます。2人からはひらめきの天才より努力の秀才のイメージが浮かびます。それはどこか地方の公立高校から国立大学に進む学生のイメージと重なる気がします。

## いよいよ 冬休み

冬休みといえばクリスマスにお正月。クリスマスにお正月といえばプレゼントにお年玉。子どもたちにとっては楽しいイベントが満載です。同時に良心に悪魔がささやきかける時期でもあります。

かつての日本には、家族が一丸となって仕事を分担し、大掃除や餅つき、門松やしめ飾り等の準備、おせち料理づくりをしてお正月を迎えるというよき風習がありました。そして、年末の慌ただししい雰囲気から、年が明けると街は穏やかな雰囲気に一変し、あちこちに日本情緒が溢れます。その場にいるだけで、凜として引き締まった気分になれるような気がします。新年の挨拶をして、おせちをいただくという、そんな日本らしいお正月を家族全員で穏やかに迎えたいものです。

よいお年をお迎えください。



### 1月行事予定

8日(木) 3学期始業式 不審者対応訓練  
9日(金) 3時間授業  
13日(月) 授業研究会(2・1以外4時間授業)  
14日(水) 専門委員会  
15日(木) 学校朝会  
18日(日) 2年修学旅行(～1/20)

21日(水) あいさつ運動(生徒会)  
2年振替休業日  
22日(木) 私立高校入試中心日 3年給食なし  
23日(金) 新入生保護者会  
27日(火) 生徒朝会 中央委員会  
県公立高校 電子出願開始  
28日(水) PTA本部会・全体会  
2月2日(月) 2年実力テスト

### 相談窓口

困ったときには、早めに相談をしましょう。

鶴ヶ島市立教育センター いじめ相談メール [ijimesoudan@city.tsurugashima.lg.jp](mailto:ijimesoudan@city.tsurugashima.lg.jp)

### 埼玉県の相談窓口等について

☆埼玉県立総合教育センター よい子の電話教育相談(無休 24時間)

【児童生徒用】#7300 又は 0120-86-3192

【保護者用】048-556-0874

【Eメール相談】[soudan@spec.ed.jp](mailto:soudan@spec.ed.jp)

☆埼玉県子ども安全課 子どもスマイルネット(平日 10:30～18:00) 048-822-7007

☆埼玉県こころの電話(平日 9:00～17:00) 048-723-1447

☆埼玉県 子供たちと保護者のための不登校支援サイト(右記QRコード)

☆困ったときの相談窓口(埼玉県HP)(右記QRコード)



不登校支援サイト



困ったときの相談窓口